

第三章 第二回總委員會及首席全權會議ニ於ケル討議

第一節 軍備制限總委員會ニ於ケル討議

第三回總委員會ノ翌日即チ千九百二十一年十一月二十三日午前第二回軍備制限問題總委員會 (Committee on Limitation of Armament) ラ開キ前日ニ引續キ陸軍軍備ノ問題ヲ審議シタリ其討議ノ要領左ノ如シ

「ブリアン」氏 (Brind) 氏

第三回總會議ニ於ケル各國全權カ「ブリアン」氏及佛國ニ對シテナセル宣明ニ對シ謝シテ曰ク今日ニ於テハ最早佛國ノ軍備ヲ指シテ攻撃ノ目的ヲ有スルモノナリト謂フモノナカルヘシ余ハ今夕華盛頓ヲ辭去スル積ナルカ歸國ノ目的ノ一ハ近々佛國政府及議會カ戰後ノ軍備問題ヲ審議スルカ爲ニシテ其議事ハ能フ限リ軍備問題ヲ實行セムトノ希望ノ下ニ行ハレ在營年限ノ如キモ多分之ヲ半減スルコトト爲スヘク華府ニ於ケル各國全權ノ聲明ノ結果之等ノ事項ハ平靜裡ニ決議セラルヘシ

「ヒューズ」氏 (Hughes) 氏 (議長)

二、米國務卿「ヒューズ」氏ノ演說ニ依リテ佛國モ亦軍備ノ重荷ヨリ免ムトスルノ共同ノ希望ヲ有スル吾人ハ第三回總會議ニ於ケル「ブリアン」氏ノ演說ニ依リテ佛國モ亦軍備ノ重荷ヨリ免ムトスルノ共同ノ希望ヲ有スルト共ニ其ノ安全ヲモ確保セムトスルヲ知レリサレハ今ヤ氏モ佛國ト吾人トノ間ニ固キ精神の結合アルヲ感セラルナルヘシ

「バルフォア」氏 (Balfour) 氏

三、英國全權「バルフォア」氏
余ノ立テルハ實際問題ヲ提起セムカ爲ナリ陸軍軍備問題ハ只佛國ニ付テ之ヲ見ルモ未タ解決セリトハ看做スヘカラス本問題ハ佛國下院ニ於テ提起セラルルトノコトナルカ又之ヲ本委員會ニ提起スヘキヤ否ヤヲ承知シ度シ陸軍制限ト佛國ノ

問題ハ「ブリアン」氏ニ依リテ提起セラレタルモ本件ニ關シテハ其他ニ幾多審議ニ價スル重要問題アリ余ハ如何ナル方法ニ依リテ此等ノ問題ヲ議ニ上スカヲ承知シタシ此等ノ問題カ公開會議ニ於ケル演說ニ依リテ既ニ解決セリト看做スコト能ハス若シ之ニ關シテ何等ノ措置執ラレサルニ於テハ米國ニ於ケルト同様歐洲ニ於テモ失望ノ感アラム

四、伊國全權「シャンツェ」(Blanc)氏

軍備制限ハ伊國ニ於テ最モ重大ナル問題ト思惟セラル而シテ其他ノ國ノ輿論モ本件ニ關シ何等カノ措置ヲ講セサルヘカラスト謂フニ一致ス余ハ伊國カ本問題ヲ實際的ニ且能フ限リ速ニ處理スヘシトノ確固タル意向ヲ有スルコトヲ茲ニ述ヘムトス

本委員會ニ於テハ軍備制限ノ如キ重大問題ノ爲召集セラレタル所ノ華盛頓會議カ問題ノ解決ヲ回避シ否寧ロ之ヲ遷延シタリト謂フカ如キ惡キ印象ヲ世界ニ與フルコトハ力メテ之ヲ避ケサルヘカラス

余ハ武器、彈藥及戰爭用具ノ取引其ノ他ノ議事日程中ノ諸件ヲ含メテ本問題ノ研究ヲ續行センコトヲ敢テ希望ス

五、佛國全權「ブリアン」(Briand)氏

余ハ會議カ今ヤ重大ナル局面ニ向ヒタリト敢テ謂ハムトス「シャンツェ」氏及「バルフォア」氏ハ會議カ本問題ヲ議ニ上スニ至リタルニ若シ其ノ討議ヲ中止スルニ至ラムカ各國民ノ間ニ非常ナル失望ノ感ヲ惹起スヘシト謂ハレタルモ如何ナル解決カ各國民ニ満足ヲ與フヘキモノナルカ各國民カ空漠タル希望ノ表示ニ依リテ満足セハ余ハ悦テ之ヲ共ニセムモ斯ル行動コン各國民ニ失望ノ感ヲ齎スヘシ

今問題トナリ居ルハ佛國ノミナルカ佛國ハ斯ル討議ニ加ハルコト能ハサルナリ會議ハ既ニ佛國ノ地位カ例外的ナルヲ認メタリ而シテ之ニ依リ且茲ニ代表セラルル各國政府ハ正式ノ約束ニ依リテ佛國ニ振掛ル重荷及危險ヲ分擔セムト申出テタルコトナキヲ以テ各國政府ハ佛國ノ軍備ニ制限ヲ加フルノ權利ヲ有セサルナリ

「シャンツェ」氏ハ佛國ハ自ラ守ラサルヘカラサルニ其ノ軍備ヲ會議ニ依リテ決定セサルヘカラスト爲サルヤ若シ斯ル

ルコト企劃セハ何事モ成立セス且佛國ハ其ノ俱ル所ノ孤立ノ態度ヲ執ルニ至リ雖テ佛國一國カ軍備制限ナル大事業ノ障害ナリト謂ハルルニ至ラム余ハ斯ルコトノ起ラサルコトヲ望ム

第三回總會議ニ於テ會議ハ余ノ說明ヲ受諾セルヲ以テ此ノ際本問題ヲ討議スルモ何等得ル所ナカルヘシ他方航空機又ハ戰爭ニ於ケル毒瓦斯使用ノ如キ諸種ノ限定サレタル問題アリテ此等ハ極メテ機微ニ觸ルルモノナレトモ之ヲ議スルコトヲ得ルナリ

六、伊國全權「シャンツェ」(Solman)氏

軍備制限ハ伊國ニ對シ極メテ重大ナルモノトス蓋シ伊國ハ既ニ能フ限リノ制限ヲ行ヒタレハナリ而シテ又本問題ハ獨リ佛國ニ關スルノミニ非スシテ中央歐洲及新興國ニ關ス此等新興國ハ既ニ多數ノ軍隊ヲ有シ又ハ其ノ組織ニ從事シツアリ即チ本問題ノ審議ハ歐洲全般ノ利益ニ於テ之ヲ爲スナリ「ブリアン」氏ハ余ノ言ニ付キ云爲セラレタルモ何人ト雖モ佛國ニ對シ其ノ以テ自ノ安全ヲ確ムル爲ニ必要ナリトスル最小限度ノ軍備ニ關シ忠告ヲ與ヘ又ハ制限ヲ置カムトスルモノナシ「ブリアン」氏ハ空漠タル希望何スルモノト謂ハレタルモ余ハ或ル主義ヲ肯定スルコトモ亦重要ナリト信ス余ハ今日直ニ歐洲ニ於テ軍備ヲ縮少セムトスル者ニ非ス之ニハ諸種ノ理由アルモ本問題ニ關係ヲ有スル數國カ會議ニ加ハリ居ラサルコトヲ以テ主トスサレト本委員會ニ代表者ヲ出セル國ハ皆軍備制限ヲ確保スルコトニ努力セサルヘカラストノ觀念ノ下ニ委員會ハ一ノ協定ニ到達セサルヘカラス又或ハ軍備制限ノ目的ヲ能フ限リ速ニ達セムトノ希望ヲ表示スル所ノ一決議ニテモ可ナルヘシ又第二次ノ問題ヲ直ニ討議セムコトハ「ブリアン」氏ニ贊成ス

七、「バルフォア」(Balfour)氏

「ブリアン」氏ハ陸軍軍備ノ問題ハ之ヲ討議スヘキニ非スト謂ハレタルカ之ハ稍々謂ヒ過ノ感アリ海軍ノ軍備ヲ全ク分離シテ考フルコト不可能ナリ

次ニ航空機及空中攻撃ノ防備ニ要スル軍備ニ付之カ討議ヲ佛國カ其ノ東方國境ニ關シ困難ナルノ地位ニ在ルノ故ヲ以テ

不問ニ付スル能ハス英國ハ島國ナレトモ空中攻撃ヲ受クルノ危険アリ陸軍及之ニ關係スル空軍ヲ除外セル決議ヲ通過スルハ會議ニトリテ危険ナリ余ハ此ノ點ヲ「ブリアン」氏カ了解セラレムコトヲ望ム

「ブリアン」(Briand)氏

余ハ本會議カ航空機及毒瓦斯使用ノ如キ問題ヲ討議セムコトヲ切望ス

然リト雖モ若シ本會議ニシテ一切ノ問題ニ着手セハ其ノ結果タルヤ未タ之ヲ逆睹スヘカラス陸軍軍備ニ關シテハ海軍軍備ニ於ケルカ如ク之カ決定的綱領ヲ提出シ得サルナリ若シ本委員會ニシテ軍ニ一勸告案ヲ提出スルニ止メムトセハ佛國全權ハ之カ草案ヲ有スルモ其ノ提出ヲ敢テ放棄セリ蓋シ之カ爲メ困惑ヲ惹起シ或政府ヲシテ其ノ平和主義者トノ關係ヲ困難ナラシムルコトヲ惧レタレハナリ

然レト若シ勸告案ニ付表示ヲ行ハムトセハ佛國全權ハ佛國ノ例外的地位ヲ認ムル旨ノ聲明ヲ入ルルコトヲ要求ス

伊國ハ陸軍人員ヲ減縮シ更ニ陸軍法ヲ修正スヘク而シテ佛國以上ニ本件ニ付爲スル所アラムモ是レ中歐ノ新國家ハ敵國ニ非ラスシテ聯合國ニ依リ創成セラレ又ハ擴張セラレタルモノナレハナリ

然ルニ佛國ノミハ國境ニ敵ヲ有スルニ英國及伊國ノ如ク之ヲ防クニ海洋又ハ自然的國境ヲ有セサルナリ佛國ハ既ニ服役年限ヲ二年ニ短縮シ且平和條約執行ノ爲十八萬ノ軍隊ヲ國外ニ出シ居ルナリ

以上ノ理由ニ依リ余ハ一般の勸告ヲ爲スノ議ニ反對セサルモ只佛國ノ例外的地位ヲ認メ現狀ニシテ變化ナキ限り陸軍軍備ヲ行ヒ能ハサルコトヲ記載セムコトヲ欲ス英國ハ嘗テ佛國ニ對シ危險ノ場合ニハ援助ヲ與フヘキヲ約シタルモ條件附ナリキ又今日佛國ハ英國及米國ノ友情ヲ享受スルモ一朝攻撃ヲ受クル場合ニハ獨力ヲ以テ守ラサルヘカラサルナリ

若シ勸告案ニ以上ノ條件ヲ附セサルトキハ會議ハ佛國ノ反對ニ因リテ其ノ偉業ノ完成ヲ防害セラレタリト喧傳セラレ又モヤ「佛國帝國主義」ノ流言現レム

「ヒューズ」氏 (Hughes) (議長)

九、「ヒューズ」氏 (Hughes) (議長)

米國政府ハ其ノ議事日程作成ニ當リ陸軍軍備ノ問題ハ種々ノ困難ヲ包含スルコトヲ十分自覺セリ蓋シ米國政府ハ佛國ノ特殊地位ヲ了解シ又其ノ他ノ諸國政府モ其ノ見解ヲ腹藏ナク十分ニ發表スヘク斯クシテ各國夫々ノ特殊ナル困難分明トナリ其ノ結果世界諸人民ヲ満足セシムカ如キ縮少ハ之ヲ實現シ得ヘカラサルコトヲ知リタレハナリ

加之會議ニ代表セラレサル國ニ付テモ考慮セサルヘカラサルナリ此等ノ事情アルニモ係ハラス米國ハ本問題ヲ議題中ニ加ヘタリ蓋シ其ノ理由ハ第一ニ米國政府ハ諸種ノ意見ニ考慮ヲ加ヘ又公的或ハ私的ニ意見ノ提示スルコトヲ阻止セムコトヲ望マス其ノ二ハ討議ヲ専ラ海軍制限ニ限ルヘキニ非スト考慮シタルカ故ナリ蓋シ或ル重要ナル戰爭用具ハ之ヲ専ラ海軍用ナリト看做スヘカラサレハナリサレハ例ヘハ航空機又ハ毒瓦斯等ニ關シテ小委員會ヲ設置スルヲ要ス

「ルート」氏 (Root) 氏

本委員會カ陸軍軍備制限ニ關スル或事項ニ付一定ノ結論ニ達スルコトノ成不成ハ別トシテ眞摯ニシテ實際的ナル考慮及本件ノ討議ハ夫レ丈ニテ形勢ヲ緩和シ又本委員會ニ對シ一ノ基礎ヲ能ヘ之ニ依リテコソ今後ノ進歩ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ軍ニ障礙ハ何タルヤヲ確ムルノミニテモ何力故ニ一定ノ協定ニ達シ得タルカ又得サルカヲ知ルコトヲ得ルナリ斯クシテ將來ノ進歩ヲ計ル爲メノ方法ハ見出サルナリ

「ヒューズ」氏 (Hughes) 氏

本委員會カ本問題ヲ處理スルニハ陸軍軍備及新式武器ノ件ヲ議題及議事進行委員會 (Committee on Program and Procedure) ニ付託スルカ又ハ特別委員會ヲ任命シテ之ヲ議セシムルカ或ハ本委員會自ラ之カ審議ニ當ルカニアリ

十二、「加奈陀全權」サア・ロバート・ボートン」(Sir Robert Baden)

何人モ佛國ニ對シ辛酷ナル條件ヲ課セムト思フ者ナシサレト余ハ佛國政府カ近キ將來ニ以テ「ブリアン」氏カ提示シタル所以上ニ其ノ軍備ヲ減縮シ得ルカ如キ事態ノ發展ヲ望ム夫ハ兎ニ角トシテ若シ會議カ陸軍軍備問題ヲ討議セサルカ如キコトアラムカ全世界ノ失望ハ多大ナルモノアルヘシサレハ余ハ本件ニ對シ明確ナル解決ニ到達セムコトヲ望ム

十三、「ブリアン」(Brand)氏

航空機、毒瓦斯及戰時法規ノ三問題ニ關シ各小委員會ヲ任命スルコトハ佛國全權ノ贊成スル所ナルモ一般の問題ノ討議ニ關シテハ更ニ説明ヲ與ヘサルヘカス一般の問題トハ果シテ何ヲ指スヤ若シ秩序維持ノ義務アル國際軍ニテモ設置セムト謂フカ如キ義ナラハ佛國ハ軍備制限ノコトヲ議スルニ躊躇スルモノニ非ス然リト雖モ余ハ今日迄斯ル提案アリタルヲ知ラス余カ佛國議會ヨリ最モ明カニ委託セラレタル所ハ佛國ハ若シ其ノ安全ヲ保障セラルルニ於テハ如何ナル軍備制限ニモ贊同スヘシサレト之ナクシテハ何モノニモ贊同スルコト能ハスト謂フニ在リキ

十四、米國全權「ロッヂ」(Lodge)氏

余ハ最善ニシテ實際的ナル方法ハ本件ヲ議題及議事進行委員會(Committee on Program & Procedure)ニ付託シ之ニ航空機、毒瓦斯及國際法ニ關スル分科ヲ組織セシムルニ在リト信ス

第二節 首席全權會議ニ於ケル討議

首席全權會議

一、千九百二十一年十一月二十三日午前ノ午後總委員會ニ引キ續キ首席全權ノミヲ以テ成ル第二回議題及議事進行委員會(Committee on Program & Process)ニ於テ陸軍軍備問題ヲ議シタリ其要領左ノ如シ

「ヒューズ」

二、「米國國務卿」ヒューズ(Hughes)氏(議長)

本委員會ハ陸軍々備ニ關シ如何ナル處置ヲ執ルヘキカニ關シ及三個ノ小委員會ヲ設置スルカ爲ニ召集セラレタルモノナリ

「バルフォー」

三、「バルフォー」(Balfour)氏

午前中ニ開催セラレシ第二回軍備制限問題總委員會(Committee on Limitation of Armament)ニ於テ「ブリアン」氏ノ陳述セラレタルトコロハ佛國カ陸軍々備制限ニ贊成シ得サルコト及其ノ理由ナリキ然レ共斯ル理由ニ因リテ本問題ヲ討議

シ得スト謂ハレサルヘシ

「ブリアン」

四、「ブリアン」(Brand)氏

若シ陸軍々備制限問題ニ關シ會議ノ聲明アルコトヲ一般カ希望セラルナラハ佛國ハ其ノ安全及保護ノ爲ニ強力ナル陸軍組織ヲ維持スルノ要アリトノ旨ヲ之ニ入ルルニ於テハ全然之ニ贊成ス

「シヤンツ」

五、「シヤンツ」(Shanzer)氏

「ブリアン」氏ノ提案ハ軍備制限ニ對スル一般ノ希望ノ表示ヲ防クルモノニ非スト了解ス

「ブリアン」

六、「ブリアン」(Brand)氏

余ハ余ノ言ヲ誤解セサラムコトヲ望ム余ハ會議ハ廣汎ナル軍備制限ヲ行ハサルヘカラスト謂フコトノ希望ヲ表示セサルヘカラストノ提案ハ之ヲ支持スルモ佛國及歐洲ノ狀態ハ其ノ範圍又ハ適用ヲ制限スルカ如キモノナリトノ留保ニ手ヲ觸ルルコトニハ贊成スル能ハス換言セハ以上ノ理由ニ依リ佛國ノミカ軍備制限ノ障礙ト爲スカ如キ地位ニ之ヲ置クヘカサルナリ若シ會議ニシテ軍備制限ニ對スル希望ヲ表示シ而シテ佛國ハ其ノ安全ヲ確保セサルヘカラストノ旨ヲ附加スルニ於テハ余ハ全然之ニ満足ス

カクシテ會議ハ一般陸軍軍備制限ニ付テハ何等ノ決議ニモ達セス唯航空、毒瓦斯戰時法規ノ三専門分科會ヲ設置スルコトヲ決議セルノミ